

## 【Bセンス渋谷班】 報告

横山隆一(Bセンス・フォーラム運営委員、日本自然保護協会)

2009年10月31日(土曜)、いい天気の中、第4回Bセンス・フォーラムが開催されました。予定通り4コースに分かれ(渋谷、世田谷、築地市場、谷根千・下町)、Bセンスが感じられるもの、Bセンスで目を留めたいものを探しながら、タウンウォッチングをしました。

私たちは渋谷班。最も自然から遠いイメージのある街ですが、大通りにも裏道にも、この街としての自然・いきものと人との関係はいろいろみつけられました。

青山の会場に戻り、撮影してきた写真のスライドショーをしました。東京という街にも、地域の生き物や食べ物とかかわりの深いお店、伝統的な商いを続けているお店、小さな野生生物の世界やそれらを維持しているお寺や神社などの空間は、ずいぶんたくさんあることを知りました。

渋谷で見つけた、主なものごとを紹介します。

- 会場の国連大学の前は青山通りですが、街路樹の下にアベリアが植えられています。スイカズラの仲間、ハナツクバネウツギといわれる園芸種。低木で、春～秋まで鐘形の小さい花をたくさん咲かせ、花の香りが漂っていました。そこに何か飛ぶものが…。近寄ると、俊敏なその生きものは、花から花を渡り歩いて蜜を吸うスズメガの仲間、ホシホウジャクでした。まるでハチドリのような、昼間動く蛾。大通りの道端でのバタフライウォッチングから始まりました。

### 写真①

ハナツクバネウツギ



### 写真②

くちばしを伸ばして蜜を吸う、ホシホウジャク



- 人であふれるハチ公前の交差点からセンター街へ。この道は、かつては新宿御苑から流れていた渋谷川の、明治神宮からの支流の川道です。どんどん歩いていくと、確かに川だったと思える道になっていき、道端の家は、もとは川岸にあった家。周囲には、古くからの八百屋さん(今も現役)もあり、人が普通に暮らしてきた街でもあることに気づきます。



写真③  
渋谷川支流の道

写真④  
古くからの八百屋さん



■ 道は緑道(遊歩道)に変わります。そこに「ハチ公ソース」の赤い看板。渋谷に昔からある、地元産品の一つ。東急デパート地下の食品売り場に三種類が売っていました。その土地で作られているもの、売られているものを探すのも、Bセンス行動の一つです。なぜ渋谷で洋食に使うソースだったのか、何か歴史があるのでしょうか。

写真⑤ 緑道



写真⑥ ハチ公ソースの看板





■ 緑道を自然観察しながら歩きます。イチモンジセセリがいました。後翅裏の銀紋が一文字に並ぶのでこういう名前。幼虫は、イネ科の植物をいろいろ食べるので都会にも生き残っています。渡りをするチョウで、もうすぐこの身体のまま越冬します。近くには、ツワブキの黄色のきれいな花が光っている。日陰でもよく育ち、民間薬（生薬名たくご）として茎と葉を打撲や火傷に用いるとのこと。フキと同じように茎を煮て食べることができ、フキと同様「キャラブキ」と呼ばれるそうです。家の前のほんのちょっとした空間で、みなさん緑を育てていました。あるお宅のベランダには、干し柿と葉のついたままの唐辛子がたくさんつるされていました。

写真⑦ イチモンジセセリ



写真⑧ ツワブキの花



■ 丘に突き当たり、家々の脇に続く細い階段道を登っていくと、そこにはお寺があり渋谷の街を見渡せる墓地がありました。まだヒガンバナも咲いています。そのとなりは代々木八幡。もともとの東京の自然を彷彿とさせてくれるシイカシ林があり、発掘された縄文時代の家のレプリカも建っています。丘をおり、対岸の丘にあがると、そこは明治神宮と代々木公園。晩秋の明治神宮の歩道の脇で、杭の脇でじっとしている茶色いオオカマキリをみつけました。メスなので、最後の餌をとって卵塊を産み、冬の前に命を終えるのでしょう。

原宿に出る明治神宮の正門のまわりは、観光や散策の人たちで一杯でした。他のいきものや自然環境と人との関係は、渋谷の街でもいろいろあるのだなと感じられる半日でした。

写真⑨ 代々木八幡



写真⑩  
明治神宮のオオカマキリ